



Feature 05

まちに溶け込み、社員の交流を生み出す

JR東日本 武蔵野運輸区事務所

地域の方々に愛されるオフィスに

働き方改革の一環で、職場環境の整備を進めているJR東日本。武蔵野運輸区事務所の新設もその一つで、誰もが気兼ねなく安心して自らの意欲を伸ばしていく、職場風土の実現を目指している。

武蔵野運輸区事務所の大きな特徴は、閑静な住宅地の一角に計画されたこと。まちの人々と緊密な関係を築く必要がある鉄道会社の事務所は、地域の方々に愛される建物でなくてはならないという思いから、周辺の環境との調和を重視して計画した。地域動線に面した緑地には、植物を植えて、周辺の方々にも楽しんでいただいている。

社員の交流を活発化する空間を構築

これからの働き方のキーは、内勤者と乗務員の融合によるコミュニケーションの増加にある。そこで、1階の執務室は構造上必要な柱や壁以外は設けず、明確な区分けのないフレキシブルな空間を構築した。TPOに合わせて業務をする場所が選べるのでオフィス内での行き交いが増え、生産性とコミュニケーションがアップ。利用方法の限定が少ない分、時代のニーズに合わせての更新がしやすいのもメリットだ。

2階には会議室と訓練室を設置。3階と4階の男女別の休養室エリアは、コンパクトながら機能的で衛生的な水回り、快適なベッドルームで構成されている。

「鉄道」らしさと温かみのあるサイン

運転手、車掌とも、乗務時は常に緊張が伴う。そのため、このオフィスは乗務後にリラックスすることも重要となる。そこで、直感的に建物を使用できるよう、気持ちがほっと安らぐ、温かみのあるサインを施した。その上で要所に線路をモチーフにしたラインを添え、安全な鉄道運行を支えるための、つながりを表現した。従業員からは、オリジナリティのあるサインに愛着が持てるという声が届いている。同様のテイストのサインは、エントランスや駐車場などにも設置。通りすがりの人にも、緑地植物と同様に親しみを感じてもらえたらと思う。



多彩な什器の多くは可動式を提案。用途に合わせ、自由に配置換えができる



エントランス



通路部分も壁で隔たりをつけず、床材の色で識別できるようにした



温かみと鉄道を織り交ぜたサイン(左上:給湯室 右上:駐車場 左下:休養室フロア 右下:衝突防止)

東所沢駅から徒歩5分ほどの住宅地に位置。長年駐車場だったことから、圧迫感を与えない外観を検討した

JR東日本 武蔵野運輸区事務所

所在地	埼玉県所沢市	階数	地上4階	電気	村井和浩
用途	事務所	構造	S造	積算	竹下雅泰
建築主	東日本旅客鉄道	開業	2024年3月	サイン	田口光
施工	東鉄工業	〈担当〉		C G	池松祐一
敷地面積	1,230.32㎡	建築	村上奈緒子、古賀夏実、山浦賢*	工事監理	中下賢治
建築面積	725.99㎡	構造	下村隼人		(*は元社員)
延べ面積	2,411.63㎡	設備	川島憲太郎、吉本尚世		

PROJECTS

JR東日本 武蔵野運輸区事務所

当社HPでも同物件のご紹介をしております。ぜひ、ご覧ください。

